



大阪国税局長賞

「会う」を守る税金

常翔学園高等学校 2年 平口 里奈

歩いて友達に会いに行く。自転車に乗ってショッピングモールに行く。そんな当たり前のことができなくなったら。

私はバスで通学している。「敬老優待乗車証をお持ちの方はご提示下さい。」既に何百回と聞いた車内アナウンスに興味を持ったのはこの作文がきっかけである。

敬老優待乗車証とは、私の住む大阪市が行っている高齢者支援の取り組みの一つである。七〇歳以上の高齢者はこれを提示することで、公共交通機関を一律五〇円で利用できるらしい。私は驚いた。バスの場合、大人の通常運賃は二百十円だから、約四分の一の値段で利用できるということだ。調べてみると、その四分の三の運賃の一部に「税金」が使われていることが分かった。

ふと自分が高齢になった姿を想像してみた。少なくとも今より足腰は弱っているだろうし、免許だって既に返納しているだろう。私は悲しくなった。一体どうやって移動すれば良いのだろう、と。私は敬老優待乗車証、つまり税金の大切さを痛感した。運賃が安く、電車やバスが利用しやすい環境。この環境のおかげで、趣味を楽しんだり、友人との交流が続けられる高齢者がいるのだ。税金は高齢者の「会いたい、行きたい。」という思いを実現している。

今の日本は高齢化社会だ。日本は高齢者を支援するために医療や介護など様々な社会保障を提供している。昨年の年金の総額は約五十四兆円。そのうち約十二兆円が税金支援らしい。ものすごい額だ。税金のおかげで高齢者の豊かな生活が守られているのは紛れもない事実であろう。税金が高齢者支援に使われることに批判的な意見もあるが、私はそうは思わない。年配の方に優しくして頂いた思い出やお話しすることで得た新しい知見が浮かんた。私たちの税金が高齢者の笑顔をつくっている。その笑顔はまた私たちが笑顔にしてくれるだろう。税金は循環しているという言葉を目にしたことがあるが、まさにその通りだと思った。

祖母も敬老優待乗車証を持っているそうだ。祖母曰く、「申し訳ない」らしい。きっと、通常運賃との差額の百六十円のことだろう。いや、と思った。私の支払う税金で祖母が気軽に移動でき、私に会いに来てくれるのだ。祖母だけじゃない。税金を支払うことで、高齢者の支えに少しでもなれたら、それはとても嬉しいことだ。今日もバスに乗っている年配の方々はどこに、誰に会いに行くのだろうか。